

緑の風 FAX版



JR 東労組ホームページ

NO. 143 2022年4月25日 JR東労組

福知山線脱線事故から17年

安全な鉄道をつくるには

労働組合が必要だ！

●福知山線脱線事故とは？

2005年4月25日、福知山線脱線事故が発生し、運転士を含む107名が犠牲になりました。事故の直接的な原因は制限速度を大幅に超えてカーブに進出したことですが、背後要因としてJR西日本がミスをした社員に『日勤教育』と呼ばれる長期的な社員教育を課し、**責任追及の風土が福知山線脱線事故につながりました。**



事故現場には『祈りの杜』が建てられました。

JR西日本は事故後、安全対策の柱として日勤教育の見直しを掲げ、2016年4月から事故やミスで列車が遅延しても処分しない制度を導入しました。

●賃金カットを行う経営姿勢は責任追及の現れか！？

2020年6月、JR岡山駅で回送列車の入区作業の際、運転士は待機するホームを間違え、1分遅れたことを申告しました。会社は「遅れた分は労働時間ではない」「ノーワークノーペイの原則に基づく」として1分間43円と残業代13円の合計56円の賃金カットを行いました。運転士は岡山地裁に提訴し、2022年4月19日、賃金カット分の支払いを命じる判決を言い渡しました。



この裁判に対し、**福知山線脱線事故の遺族からは「JR西日本の体質は変わっていない」「同じ事故を起こさないためにも声を上げていきたい」と意見が出されています。**

JR東労組に結集し、安全な職場をつくり出そう！